

## 新しい文化創造 時代は14世紀から16世紀 舞台は西ヨーロッパ

- 1) 「ルネサンス」とは、古代ギリシア・ローマの古典文化を模範とし、神や教会を中心とする世界観から、人間の理性や感性を重視して人間性の自由・解放を求め、人間中心の新しい世界観への転換を模索した文化運動である。ルネサンスの芸術家たちは教会の権威にとらわれず、自由かつ合理的に人間や世界を表現しようとした。「ルネサンス」とは、フランス語で「再生」を意味する。一般にルネサンス以降を「近代」と呼ぶが、中世以来の貴族的・保守的側面が残り、中世の文化の継承・発展という面もあると指摘されている。
- 2) 人文主義（ヒューマニズム）とは、人間の生をめぐる問いを基本にする考え方のことであり、古代ギリシア・ローマの古典を学ぶことを通じて、人間のありのままの姿を肯定することである。「源泉にもどれ」という精神のもとに、ラテン語やギリシア語で書かれた古典の収集や研究を精力的に行った人々を人文主義者（ヒューマニスト）と呼ぶ。ルネサンスの芸術家の多くは人文主義者だった。
- 3) イタリアルネサンスは14世紀の北イタリアに始まり、15世紀のフィレンツェを中心に発展し、16世紀はじめ、ローマに中心を移して最盛期を迎え、16世紀前半には衰退した。イタリアルネサンスは、15世紀末にはアルプス以北に広まり、早くからルネサンスが展開していたネーデルラントから他のヨーロッパ諸国に広まり、北方ヨーロッパにまで及んだ。それは、哲学・思想、建築・彫刻、絵画、文学、音楽、技術開発などあらゆる分野に及んだ。
- 4) イタリアのルネサンスは、フィレンツェのメディチ家などの大富豪やローマ教皇に保護され、イギリス・フランス・ドイツなどでは国王や皇帝など権力者の保護下にあった。したがって、貴族趣味的な傾向を帯び、当時の社会体制を正面から批判・変革する運動にはなり得なかった。

## ルネサンスはイタリアで起きた

- 1) 《頻出》14世紀に北イタリアでルネサンスが起こったのはなぜか？

①地元にも残っていなかったギリシア・ローマの古典が還ってきた！  
No.96で述べたように、ギリシア・ローマの古典が、旧ビザンツ圏、次いでイスラーム圏を経由して（イスラーム文化の書物といっしょに）、12世紀にイベリア半島の【1: 】やシチリア島の【2: 】を入口にラテン語に訳されヨーロッパに環流した。混乱をきわめる14世紀のイタリアにおいては、それらはすばらしい模範そのものであった。

②【3: 】（レヴァント貿易、B=地中海東岸地域との貿易。取引は右図のCのカイロで行われた）と北西部ヨーロッパ（Eの地域）との貿易による経済的繁栄で、新しい文化を受容する豊かな市民生活があった！フィレンツェの【4: 】※など想像を絶する大富豪も登場し、生活を保障された優れた芸術家は現世の生活を肯定し人間の自然な感情を重視し古代ギリシア・ローマの文化を理想として創作に励んだ。

※コジモ=デ=メディチ 1389~1464 はフィレンツェ共和国の国家元首。ロレンツォ=デ=メディチ 1449~92 はポッティチェリなど多数の芸術家や人文主義者を保護し、イタリアルネサンスの最盛期を現出。

- ③東方貿易の取引相手でもある【5: 】の文化的影響も大きい！
- ④ビザンツ帝国は、1453年には【6: 】によるコンスタンティノープル占領で滅亡（No.87）するが、14世紀には既に衰退が目立ち、古典学者がイタリアに移住してきた。
- ⑤イタリアは古代ギリシア・ローマ文化の「地元」で、無数の遺跡が残っていた。

2) ルネサンスの先駆者は、以下の①~④をセットで「14世紀の4人」として覚えてほしい。①と②、③と④は親友である。

- ①【7: 】 1265-1321 Dante : トスカナ語（イタリア語の原型）で叙事詩『神曲』を書く！

ダンテは最後の中世人にして最初の近代人。イタリア国民文学の祖とされる。

神曲とは、1307~21年に書かれた全1万4233行からなる壮大な長編叙事詩である。生身の人ダンテが、古代ローマの大詩人ウェルギリウスの案内で「地獄」と「煉獄」をめぐる、永遠の恋人ベアトリーチェによって「天国」にみちびかれる。ダンテは、この寓意あふれる三界の遍歴を精確をきわめ、劇的な迫力にみちた詩句によって叙述。

- ②【8: 】 1267?-1337 Giotto : 近代イタリア絵画の祖 『聖フランチェスコの生涯』

絵画を中世的なゴシック建築の束縛から解放。自然の風景を率直に描く。建築家でもある。

人物を背後の建物や風景との比例を考慮した自然な大きさに描くなど三次元的な空間表現や人物の自然な感情表現を実践した。平面的・装飾的な表現を常とする当時の絵画界（ビザンツ様式）においては革新的なものだった。ジョットは「西洋絵画の父」や「近代最初の画家」（byヴァザーリ）とまでいわれた。1301年に出現したハレー彗星をパドヴァのスクロヴェニ礼拝堂の壁画のモチーフに描いたことから、1985年打ち上げの彗星探査機はジョットと命名された。この探査機はハレー彗星に最接近した。

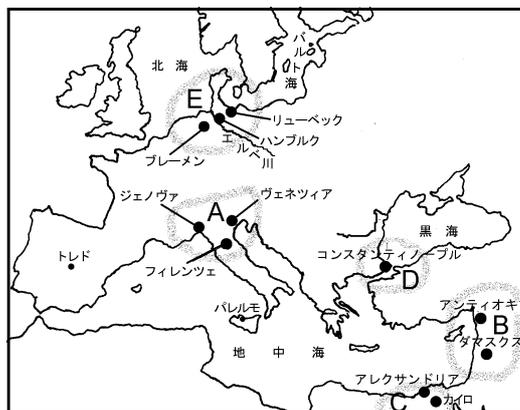
- ①②の両者は、ルネサンスの先駆者でありながら、キリスト教的世界の影響をまだ十分に引きずっている。①②に加えて覚えてほしいのは、次の2人である！

- ③【9: 】 1304-74 Petrarca : 『抒情詩集』をイタリア語で書く。（抒は叙でも可） ①②に次いで《頻出》

【9】は1335. 4. 26多くの反対を押し切って南仏の標高約1900mのバントゥー山に非宗教的な動機で登山した。

- ④【10: 】 1313-75 Boccaccio : 『デカメロン』=近代小説の原型（「人曲」とも呼ばれる）

③④はヒューマニスト（前述）の先駆けであり、ここからあらゆる分野に広まった！



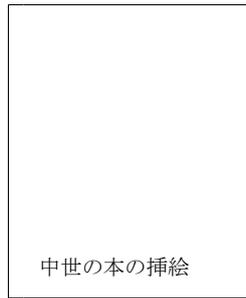
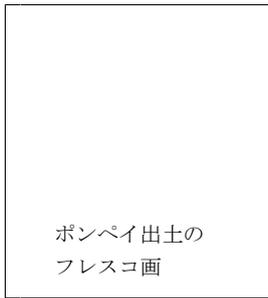
## 15世紀のイタリアルネサンス

15世紀、毛織物業で栄えるフィレンツェを中心にルネサンスは展開した。豪商

メディチ家は芸術家を保護した。しかし、まだ頂点ではない。要点をまとめよう。

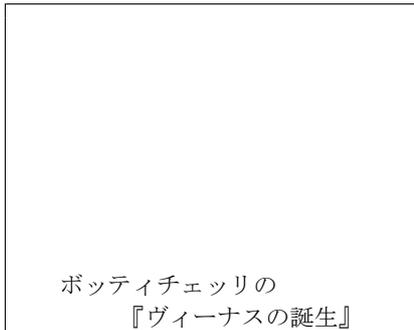
1) 新しい絵画の出発を見た！創作のテーマの中心が神から人間になった。遠近法等も確立した。

① 【11:】 1444?-1510 Botticelli 『ヴィーナスの誕生』、『春』(プリマヴェーラ)



コピーまたは自作イラストを貼り付けよう(上端だけ)  
以下同じ

テーマは「三美神」: この3枚はルネサンス絵画における古代の「発見」の例として出題されることがある。  
ボッティチェッリの『春』



② 【12:】 1386-1466 Donatello

ルネサンス様式を確立した彫刻家。解剖学の知識に基づいた人体の写実的な表現。代表作『ガットメラータ将軍騎馬像』《重要》は16世紀のミケランジェロ、レオナルド=ダ=ヴィンチ等に多大の影響を与えた。

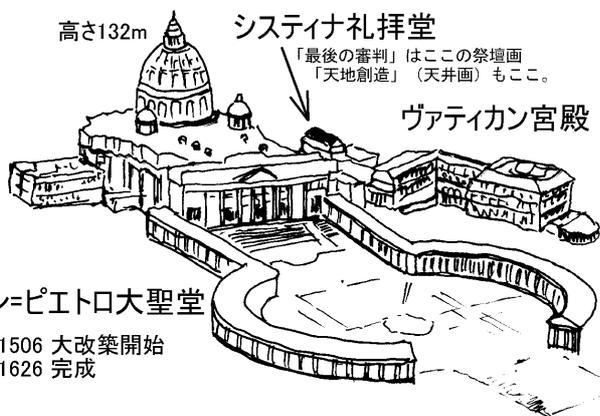
③ マサッチョ(マサッチオ、マザッチョ) 1401-28 Masaccio 遠近法を駆使。透視図法を最初に使用、初期ルネサンス絵画の革新者。『楽園追放』『貢の銭』。短命だったが、他の芸術家に多大の影響を与えた。

2) 建築におけるルネサンス様式の隆盛

① 【13:】 1377-1446 Brunelleschi 【14:】 のドーム 07A 正式名称で出題 フィレンツェ市内でひととき目立つサンタ=マリア大聖堂(=フィレンツェ大聖堂、正式にはサンタ=マリア=デル=フィオーレ大聖堂、丸屋根は132m、鐘楼は85mもある)はブルネレスキの設計と紹介されることが多いが、実はブルネレスキが設計したのはドーム部分だけで、そこは初期ルネサンス様式。教科書にサンタ=マリア大聖堂がルネサンス様式の建築例として載っていない訳は、多くの部分がネオ・ゴシック様式(完成は19世紀)だから。

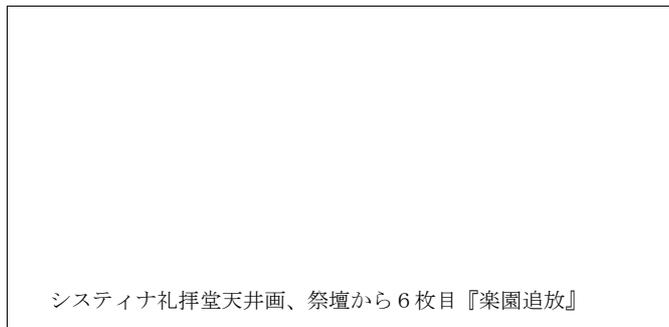
② 【15:】 1444-1514 Bramante 【16:】 (聖ピエトロ大聖堂とも言う)

ローマ=カトリックの「総本山」はここ(現在も)。教皇の所在地。ミケランジェロが設計した部分もある。



《重要》システィナ礼拝堂は大聖堂と比べると小さいが重要である。ここにはミケランジェロの作品が2つもある。

「最後の審判」(ミケランジェロ)は、システィナ礼拝堂の正面を飾る大祭壇画である。1473~81年の間に制作された。天井画ではないから注意しよう。写真で出題される時、中央部の「審判を下すキリスト」の付近のみ表示されることが多いが全体は40.5m×13.2mの長方形の巨大な作品である。↓



レオナルド=ダ=ヴィンチの  
『最後の晩餐』(15世紀末)との混同に注意

システィナ礼拝堂大祭壇画  
『最後の審判』(16世紀前半)中央部分

↑システィナ礼拝堂の大天井画もミケランジェロの作品。1508年完成。天井の構造材(梁)を境に区分された面ごとに『旧約聖書』の『創世記』を9つの場面で表現。祭壇から4枚目「アダム」の指先とアダム」の指先が触れそうで触れていない。6枚目の「楽園追放」も有名。教皇ユリウス2世が作者に強要して描かせたとされる。ミケランジェロは、彫刻が本業である。